胃腸炎

胃腸炎

- 胃，小腸，および大腸の粘膜に炎症が生じる病態。

胃腸炎

1.急性胃腸炎

これまで正常だったが、急に症状をきたし、ほとんどの場合、正常に戻るもの。

2.慢性胃腸炎

これまで正常だったが、徐々に症状をきたし、常に症状があり、なかなか治りにくいもの。

急性胃腸炎の原因

1.過労、ストレス

2.食物

　　1.量：多量。　食べすぎ。暴飲暴食。

　　2.質：体に合わない。アレルギー体質等

3.毒：キノコ　植物、金属等

4.くすり：抗菌剤　解熱鎮痛剤

急性胃腸炎の原因

5.微生物

1.ウイルス：ノロウイルス　ロタウイルス　コロナウイルス等

2.細菌：食べものの中に存在。・・・・　食中毒

・キャンピロバクター：下痢しているペットから感染することもあり。

・サルモネラ

・腸管出血性大腸菌（O157等）：生肉　初夏～初秋に多い

3.寄生虫：アニサキス　アメーバー赤痢

6.循環障害

・虚血性大腸炎：大腸の血行が悪くなり、発赤、はれ、びらんをきたし出血する。

7.原因不明

慢性胃腸炎の原因

Ⅰ.慢性胃炎

・ピロリ菌

Ⅱ.慢性腸炎

A.感染性

・腸結核　放線菌症、アメーバー赤痢、
ランブル鞭毛虫症、等

B.非感染性

・放射線腸炎

・炎症性腸疾患

1.潰瘍性大腸炎

2.クローン病

腸型ベーチェット病

急性胃腸炎

（症状）

1.食欲不振
2. はきけ，嘔吐
3.下痢：泥状、水様
4. 出血、血便
5. 腹痛
6. 発熱、倦怠感

急性胃腸炎の診断

1. 病歴

2.血液検査

3.便の検査

1.ノロウイルス、：すぐ診断がつく。

2.細菌：4日ほどかかる。

4. 超音波検査、CT

・腸がはれているか、大きながんがないかがわかる。

・虚血性大腸炎等がないかある程度わかる。

・腹痛や嘔吐をきたす他の病気がないかを調べる。

急性胃腸炎の診断

5.内視鏡検査：診断、治療するに際して大きな武器。

1.胃カメラ：

・胃アニサキス：すぐ診断がつき、カメラを用いて除去して治療もできる。

2.下部大腸内視鏡検査

・浣腸などの簡単な前処置ででき、苦痛も少ない。

・ある細菌が原因の偽膜性大腸炎の診断はすぐつく。

・出血している場合、痔からの出血か、虚血性大腸炎や大腸がんなどの大腸の病気による出血かがわかる。

急性胃腸炎の治療

A.　ほとんどが外来にて治療可能。

1.整腸剤

2. ウイルスが原因と疑われるもの→ 対症療法。

3.細菌が原因と疑われるもの→抗菌剤

4.脱水症状が疑われる場合→点滴

B.入院治療

1.重症の虚血性大腸炎と思われるもの。

2.重症の病原性大腸菌（O157）による急性胃腸炎。

急性胃腸炎の予後

1.ほとんどは外来治療でよくなる。

2.2週間以上たってもよくならない場合は、慢性胃腸炎の可能性もある。
➡胃カメラ、全大腸内視鏡検査等の精査が必要。

3.腸管出血性大腸菌（O157）の場合。
・時に腎機能障害、脳障害などの後遺症をきたしたり死亡する場合もある。
・小児、老人、基礎疾患のある方は、重症化する場合があるので、早めに病院を受診したほうが良い。

急性胃腸炎の予防

1.過労、ストレス、暴飲暴食を避ける。

2.生もの、しめさばなどは要注意。
　　←細菌性胃腸炎、アニサキスの予防

3.肉を食べる場合十分に加熱されたものを食べる。
　　←腸管出血性大腸菌（O157）の予防。

これから夏にかけての急性胃腸炎の予防は？

1.食中毒予防の3原則

1.菌を付けない。（洗う、包む）
2.菌を増やさない。（早めに食べる、冷蔵庫へ入れる。）
3.菌を殺す。（加熱、殺菌）

生もの、しめさばなどは要注意。
←細菌性胃腸炎、アニサキスの予防

2.肉を食べる場合十分に加熱されたものを食べる。
←腸管出血性大腸菌（O157）の予防。